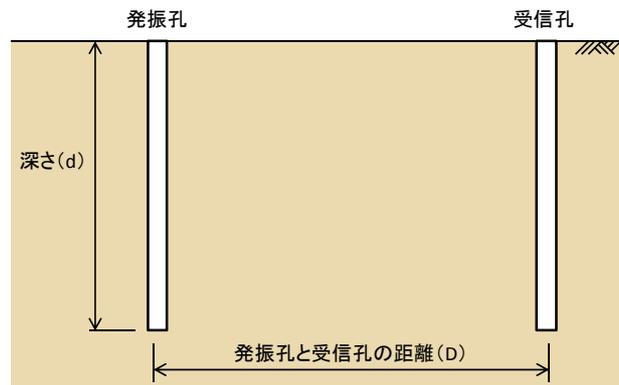


ご使用にあたっての留意事項

JFEシビル株式会社

- 1.調査対象範囲は飽和地盤である必要があります。また、部分的に不飽和な箇所があると調査精度が低下することがあります。従い地下水位が低い山間部、盛土、埋土などで用いる場合には調査対象地盤が飽和しているかどうかを確認する必要があります。
- 2.測線の断面形状が横長になると解析精度が低下します。ボーリング孔とボーリング孔の距離(D)はボーリング深度(d)の2倍以下にする必要があります($D < 2d$)。(地層構造や必要な精度に応じて距離(D)は短くなる場合があります。)



- 3.地層と音波の伝播特性の関係は場所によって異なることが多いため、解析結果はボーリング柱状図などによるキャリブレーションが必要です。
- 4.水平方向に音波を伝播させているため杭のような垂直な構造や高角度の断層は把握できないことがあります。
- 5.発振器と受信器を信号線で結ぶ必要があるため、発振器側と受信器側の間に線路、道路などの建設物がある場合、暗渠などに信号線を通して迂回する必要があります。
- 6.ボーリング孔は内径 50mm 以上 150mm 以下である必要があります。また、ボーリング孔は塩ビ管で孔壁を保護する必要があります(岩盤など孔壁保護が不要な場合もあります)。鉄ケーシングを用いることも可能ですが、この場合音の伝播距離が通常の下半分以下となる可能性があります。
- 7.本手法は騒音ノイズの影響を受けにくい手法ではありますが、近くに地下鉄などがある場合にはノイズの影響を除去するために発振時間が長くなるため、現場作業時間が予定よりも延びる可能性があります。

以上